

令和8年度第1回名取市障がい者等地域づくり協議会全体会

進行：浅見課長

1. 開 会

2. あいさつ 千葉会長

自己紹介

○審議会等の会議の公開について

「名取市審議会等の会議に関する要綱」に基づき、会議は原則公開とする。会議日程等は市ホームページ等に掲載し、傍聴を受け入れる。情報開示請求があった場合は委員名簿と会議録（概要記録）を公開する旨の説明があった。

3. 報告・協議

議長：千葉会長

(1) 令和7年度の協議会の取組、各専門部会及び連絡会等の活動報告

(2) 令和8年度の協議会の体制、各専門部会及び連絡会の活動計画（案）

- | | |
|--------------|---------------------|
| ・運営会議 | 資料1-1、1-2（今野係長） |
| ・相談支援部会 | 資料2-1、2-2（伊東部会長） |
| ・くらし部会 | 資料3-1、3-2（澤田石部会長） |
| ・相談支援連絡会 | 資料4-1、4-2（基幹 板橋氏） |
| ・就労連絡会 | 資料5-1、5-2（アタラタ 菅井氏） |
| ・グループホーム連絡会 | 資料6-1、6-2（うらやす 佐藤氏） |
| ・精神保健医療福祉連絡会 | 資料7-1、7-2（基幹 皆川氏） |
| ・こども福祉連絡会 | 資料8-1、8-2（児発 橋浦氏） |

<質疑応答>

【相談支援部会～くらし部会】

今野委員： 障害者の計画相談の充足率は何%程度か。者と児についてそれぞれ伺いたい。

事務局： 者については概ね9割が計画相談を利用している。障害児については児童発達支援センターの開所もあり増加傾向だが、現状は2割～3割程度であり、約7割がセルフプランとなっている。

今野委員： 者の1割が計画相談を利用しない理由は何か。

事務局： ご自身で就労系サービスのみを希望し、セルフプランを利用している場合がある。

今野委員： 基幹、委託、計画相談支援事業所の役割を整理してみて上がった課題について説明を求める。

相談支援部会 伊東氏： サービスの相談先が不明確な方や、計画相談がついていない方の受け皿が課題であった。基幹、委託、計画相談支援事業所の3層構造で取り組んできたが、市民や関係機関への周知が十分ではなかった。

今野委員： 基幹がワンストップで対応しているのか、各機関がそれぞれ対応しているのか。

相談支援部会 伊東氏： その点については未だ課題解決のための協議ができていない。

飯田委員： 役割が明確でないと相談先として分かりにくい。民生委員を含め、地域の方の相談先について整理が必要である。

今野委員： 暮らしの部会資料にある「アパート型グループホーム（GH）」について説明と、ニーズはあるのか。

くらし部会 澤田石氏： 自立度は高いものの共同での生活に不向きな方へのニーズが高い。市内でサテライト型が1事業所のみであり、ニーズはあると認識している。

奈尾委員： 障害分野から高齢分野への連携について、資料では「GHから高齢者施設へのスムーズな移行」に関し、合同研修会が定例化したことにより終結とあるが、現状は悩みながら対応している。例えばグループホーム連絡会等に持ち帰り、継続協議としていただきたい。

相談支援部会 伊東氏： 終結の理由は関係機関同士の連携が取れていたためであるが、運営会議等で共有し、相談支援部会での継続協議が可能か検討させていただきたい。

今野委員： 引きこもり支援について今年度予算化されたが、どのような施策を考えているか。

事務局： 今年度から引きこもり支援事業としてNPO法人わたげの会に居場所支援や相談支援を委託した。15歳～39歳を対象としており、先月時点では居場所支援で4名程度の実績がある。潜在的なニーズが地域に存在すると想定されるため、周知とつながりの構築に努めたい。実績については随時報告する。

山川委員： 日中サービス支援型GHについて、日中支援型に分類している点や、どのような評価基準で分類しどう生かしていくのか、また公表について。

事務局： 日中支援型に絞っている理由は高齢化や重度化に対応し、地域に根ざした形を

目指すという国の指針に基づき昨年度から実施した。事業所の自己評価、現地確認、部会内での評価という手順で行っている。今後広く周知するかは検討するが、宮城県による運営指導等も行われている。県から照会があった際には共有することを了承している。

山川委員：3件のGHを確認し、見えてきた課題は。

事務局：市外の利用者が多く市内の受け入れが少ない点が課題として浮かび上がり、改善を要望している。

【相談支援連絡会～グループホーム連絡会】

千葉会長：補足として、「親なき後」の支援について。NPO法人親亡き後の会に第三者として参加した。いかに早く介入できるか、親が高齢化していく中で今の生活を改善していきつつ、いかに早くから将来の見通しを持つかという視点が重要である。研修参加者からも現場の悩みが寄せられている。

【精神保健医療福祉連絡会～医療的ケア児等支援連絡会】

質疑なし

4. 名取市基幹相談支援センターについて

- | | |
|--------------------|------|
| (1) 令和7年度の活動報告 | 資料10 |
| (2) 令和8年度の事業計画について | 資料11 |

<質疑応答>

今野委員：「みのり会」として強度行動障害について研修を受けた職員を中心に、今後継続的な研修会を開催していきたい。

5. 仙台公共職業安定所から情報提供 立花委員より

・障がい者雇用に対する企業の理解促進について案内があった。また、10月6日開催予定の「ふれあいワークフェア」について、昨年度の状況（65社参加、求職者200人程度）を報告。

・令和7年度障害者の職業紹介業務取扱状況として精神障がい者の就職者数に伸びが見られる等の統計情報を提供した。

6. 各関係機関との情報交換

酒井委員：資料1-2R7年度の引きこもり支援について。今年度は支援者向けの研修をしていくとあるが、支援につながっている人は確かに今後支援が充足していく。どこにもつながっていない方へのアプローチをどう考えるか。

板橋氏（基幹）：民生委員からの相談はあるが、支援につながるまで時間を要するケースが多い。地区保健師と協働し、市の引きこもり支援と連携を深めていきたい。

今野係長：対象年齢（15～39歳）を超えた40歳以上の方も存在する、また15歳前の児童についても進学に繋がらずひきこもりになってしまうケースも。義務教育が終わっても支援が途切れないよう体制を整えたい。

今野委員：R8年1月からの報酬改定や総量規制などの動向、2040年に向けた人口減少に伴うサービス提供のあり方など5年・10年先を見据えた対策が必要である。国の資料を参照いただきたい。

千葉会長：日本におけるインクルージョン支援の遅れや、相談支援の現状について言及。相談支援員同士のコミュニケーションの重要性や、大学との連携による実習受け入れについて報告した。相談支援の資格を取って働きたいという学生もいた。東北福祉大4年生の学生が名取児童発達支援センターで実習を受け入れていただけることとなった。

7. その他

- ・社会資源シート、緊急時ショートステイ協定事業所シートについて 加藤主事より各事業所へ作成依頼中であり、完成次第、緊急時ショートステイ協定事業所情報シートと共に委員の皆様へ郵送させていただく。
- ・第2回目の開催時期について 今野より計画の策定に向け素案を皆様にご確認頂きたい。予定として11月前後を考えている。決まり次第、お知らせさせていただく。

8. 閉会

以上